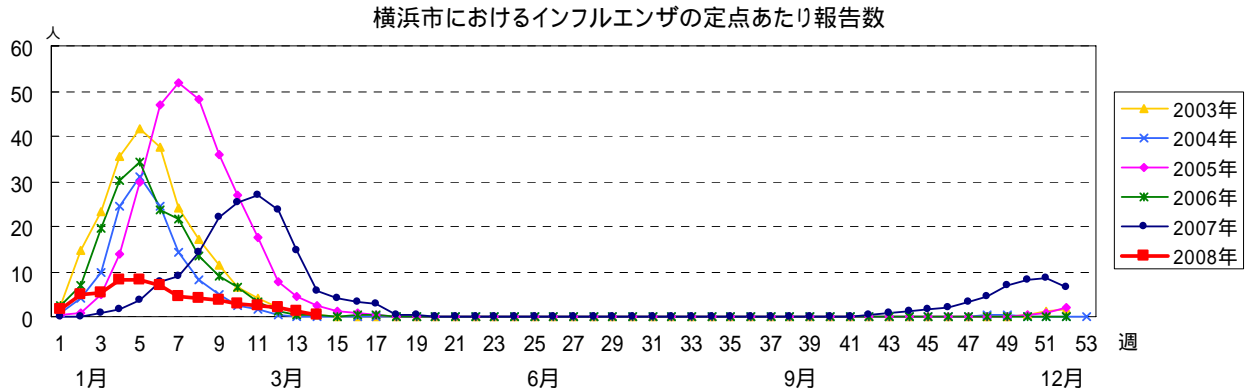


横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その 17-最終-)

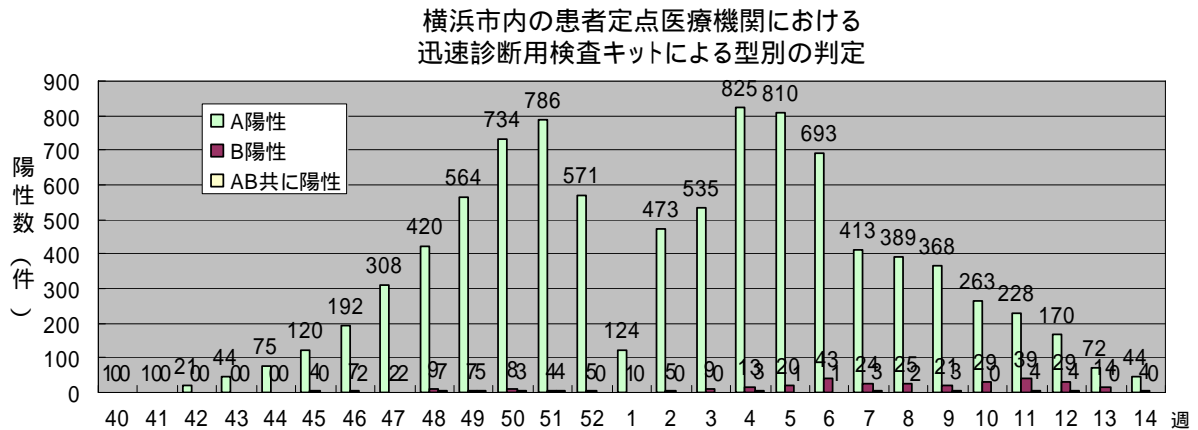
1. 感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生報告状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

1 月以降、第 5 週をピークに減少傾向が続き、今シーズンの流行は、ほぼ終息したものと思われます。第 14 週(3/31～4/6)の患者定点医療機関からの患者報告数は 56 人、定点あたり報告数は 0.51 と流行の目安である「1.0」を下回っています。今シーズンは、流行開始こそ早かったものの、ピーク時でも注意報レベルの「10」を上回ることはなく、過去 5 年間で最低の水準となりました。



また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力にて報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定をグラフに示しました。第 14 週までの累計で、A 陽性 9244、B 陽性 322、AB 共に陽性 44 の報告がありました。



全国でも、第 5 週をピークに減少傾向となっており、第 14 週の定点あたり報告数は 0.94 と全国的にも、流行は、ほぼ終息に向かっていると考えられます。

全国および神奈川県、東京都の定点あたり患者報告数(総報告数÷報告のあった定点医療機関数)

	第 10 週 (3/3～3/9)	第 11 週 (3/10～3/16)	第 12 週 (3/17～3/23)	第 13 週 (3/24～3/30)	第 14 週 (3/31～4/6)
全国	5.80	4.83	3.01	1.68	0.94
東京都	2.97	2.60	1.37	0.81	0.43
神奈川県	3.44	3.08	2.01	0.92	0.47
横浜市	2.72	2.56	2.18	1.03	0.51
川崎市	3.23	3.73	2.19	0.83	0.37
県域(横浜、川崎除く)	4.16	3.28	1.80	0.88	0.47

(2) 学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等の報告は、例年より早く 2007 年 11 月 6 日が初発で、その後 3 月 13 日まで報告があり、発生数の累計は 12 区 18 施設でした。

施設の内訳は、幼稚園 13 施設、小学校 5 施設でした。区別では、港南・緑が 3 施設、旭・戸塚が 2 施設、保土ヶ谷・磯子・金沢・港北・青葉・都筑・栄・瀬谷が各 1 施設でした。

全国の状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

2. 感染症発生動向調査等におけるウイルス検出状況

今シーズンは、Aソ連型(AH1)が多く検出されました。2008年に入り、A香港型(AH3)、B型も検出されています。第10週から第13週を見ると、Aソ連型(AH1)が9例、A香港型(AH3)が4例、B型が2例分離されています。

(1) 病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス検出状況

月集計および週数	定点数	検体数	インフルエンザ検出状況					
			A型				B型	
			H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
			分離	PCR*	分離	PCR*		
2007年10～12月集計(第43週～第52週)	36	98	42	3				
2008年1月集計(第1週～第5週)	21	55	32		1			
2008年2月集計(第6週～第9週)	20	54	29	1	3		2	
2008年第10週	6	17	6		1		1	
2008年第11週	4	10						
2008年第12週	5	12			1		1	
2008年第13週	5	12	3		2			

*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

(2) 学校等における集団かぜからのウイルス検出状況

発生週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			遺伝子*		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2007年第45週～第49週 (11/5～12/9)	6	3小学校 3幼稚園	16(1)	11(1)			(5)		
2008年第4週(1/21～1/27)	1	1幼稚園	5	3			(1)		
2008年第5週(1/28～2/3)	1	1小学校	5	3			(2)		
2008年第8週(2/18～2/24)	1	1幼稚園	5	2			(3)		
2008年第9週(2/25～3/2)	1	1小学校	2	1			(1)		

検体数、検出数の()内は保護者で内数です。

*: ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

()内の数字は、NA遺伝子(ノイラミニダーゼ領域の遺伝子)でN1のみ検出していることから推定しています。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2008年4月16日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離状況は、AH1型3412例、AH3型259例、B型175例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

その他の感染症に関する情報は http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/ をご覧ください。

今シーズンの横浜市におけるインフルエンザの流行はほぼ終息したものと考えられることから、今回をもって「速報」という形で報告は終了させていただきます。患者定点、病原体定点医療機関の先生方には、ご協力いただきありがとうございました。

引き続きご協力いただいた結果については、ホームページに週報の形で掲載しておりますので、ご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html